

観光による地域活性化を目指すなかでは、日本人観光客に限らず、外国人観光客に対する地域の誘客力強化が求められます。このようなもと、中部地方においては、外国人観光客の誘客のため、「昇龍道プロジェクト」の取り組みが進められています。このプロジェクトは中部運輸局、北陸信越運輸局などが中心となって立ち上げたもので、中部・北陸9県のエリアを「昇龍道」と命名し、連携して海外での知名度向上を図るとともに、主に中華圏及び東南アジアから観光客を呼び込むことを目標としています。

2013年における都道府県別の外国人延べ宿泊者数をみると(図表1)、中部地方で最多の愛知県でも115万人泊と、東京の983万人泊、大阪の431万人泊とは大きく差をつけられています。これは、外国人観光客の多くが東京-大阪間のゴールデンルートを周遊することによるものですが、中部地方が東京と大阪の間に位置していることを踏まえれば、その取り込みは不十分であるといえます。

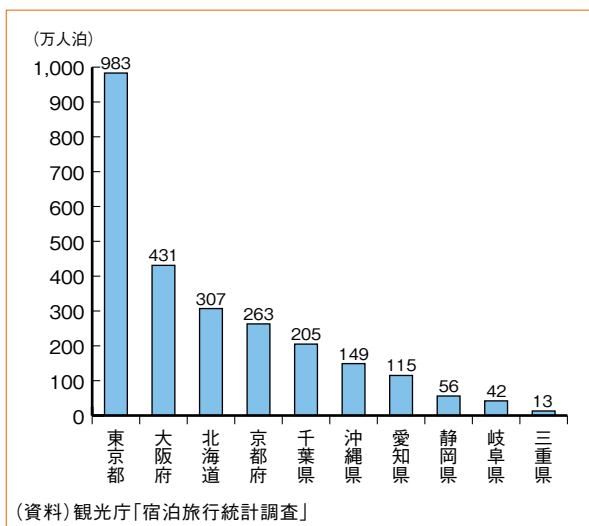
外国人観光客に中部・北陸地方への滞在を促すため、昇龍道プロジェクトでは観光地としての魅力向上に向けた環境づくりが行われています。なかでも重点的に取り組まれているのが、交通利便性の強化です。中部・北陸に点在する観光地を周遊するためには、円滑な交通アクセスの提供が重要な課題となります。昇龍道プロジェクトでは、「昇龍道高速バスきっぷ」を発売し、中部国際空港と主要観光拠点の移動手段を提供しているほか、JR東海、中日本高速道路が訪日外国人のみを対象とした特別パスを発売するなど、昇龍道エリアを周遊しやすい環境へと整備しています。

また、旅行中の受入環境の整備、とりわけ情報収集手段の提供にも尽力しています。訪日外国人観光客に対するアンケート調査によれば(図表2)、「旅行中に最も困ったこと」について、23.9%が「無料公衆無線LAN環境」と回答しており、これは「コミュニケーション」の回答率(17.5%)を上回っています。昇龍道プロジェクトでは、総務省、観光庁と連携してWi-Fi環境整備のための分科会を開催するなど、外国人観光客に向けた新たな魅力の一つとして、改善が進められています。

3月16日に北陸新幹線が開通したことで、東京から富山、石川への新たな外国人観光客の流れに伴い、中部地方への誘客効果も期待されます。北陸・中部が連携した、交通利便性の強化、受入環境の整備などによって、外国人観光客が快適に周遊できる環境づくりを進める必要があるでしょう。

三重銀総研 調査部研究員 立道 裕太郎

図表1 都道府県別外国人延べ宿泊者数(2013年)



図表2 外国人観光客が旅行中最も困ったこと

